



ひとまち 自然がきらめく 共生の郷 佐用



特集『買い物弱者』を支えるまちづくり

商店街の空き店舗にオープン 子育てほっとステーション

佐用商店街の空き店舗を活用した「子育てほっとステーション 缶★環★館」が、11月3日オープン。黒澤絵里さん（写真左）など子育て奮闘中のママ4人が、子ども服や手作り小物などを販売し、多くのお客さんにぎわいました（関連記事 12・24頁）。



主な内容 ● Contents

特集	『買い物弱者』を支えるまちづくり 古里の暮らしを守る ……2～15
	ご協力ください 買い物に関する実態調査 ……16
	ゆるキャラ大募集 ……17

きずな
絆からはじまるふるさとの復興

2010
12
No. 63





10月23日午前11時30分、週1回巡回する移動販売車が最初に停留する桑野集落のようす

人口・高齢化率・小売店の推移

【単位：人・％】

	昭和40年	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
人口	28,821	26,410	25,600	24,874	24,516	23,827	23,341	22,337	21,012	19,324
高齢化率	10.9	12.9	15.2	16.9	17.9	21.4	25.9	29.2	31.7	33.8

資料：国勢調査（平成22年分のみ10月1日の兵庫県推計人口）

【単位：店】

	昭和41年	昭和45年	昭和49年	昭和51年	昭和54年	昭和57年	昭和60年	昭和63年	平成3年	平成6年	平成9年	平成12年	平成15年	平成19年
商店数	453	489	417	431	416	424	411	405	387	368	328	338	333	281

資料：兵庫県統計書

車社会の弱者を直撃

「声をかけてくれるから、車に乗せてもらって行つてます。私、運転できんから大助かり」。「品物を見て、買いもんしたいでなあ。今も二人で行つてきたとこや」。買い物から帰宅し、縁側でお茶を飲みながら話す二人の高齢女性。家の近くに商店は無く、二人は助け合つて買い物をしています。しかし、不安をもちます。「私も来年は車運転するの、やめよ思とんや。もう年やし、危ないでなあ」。それまで明るく会話をしていた二人は、顔を見合わせ、表情が曇りました。

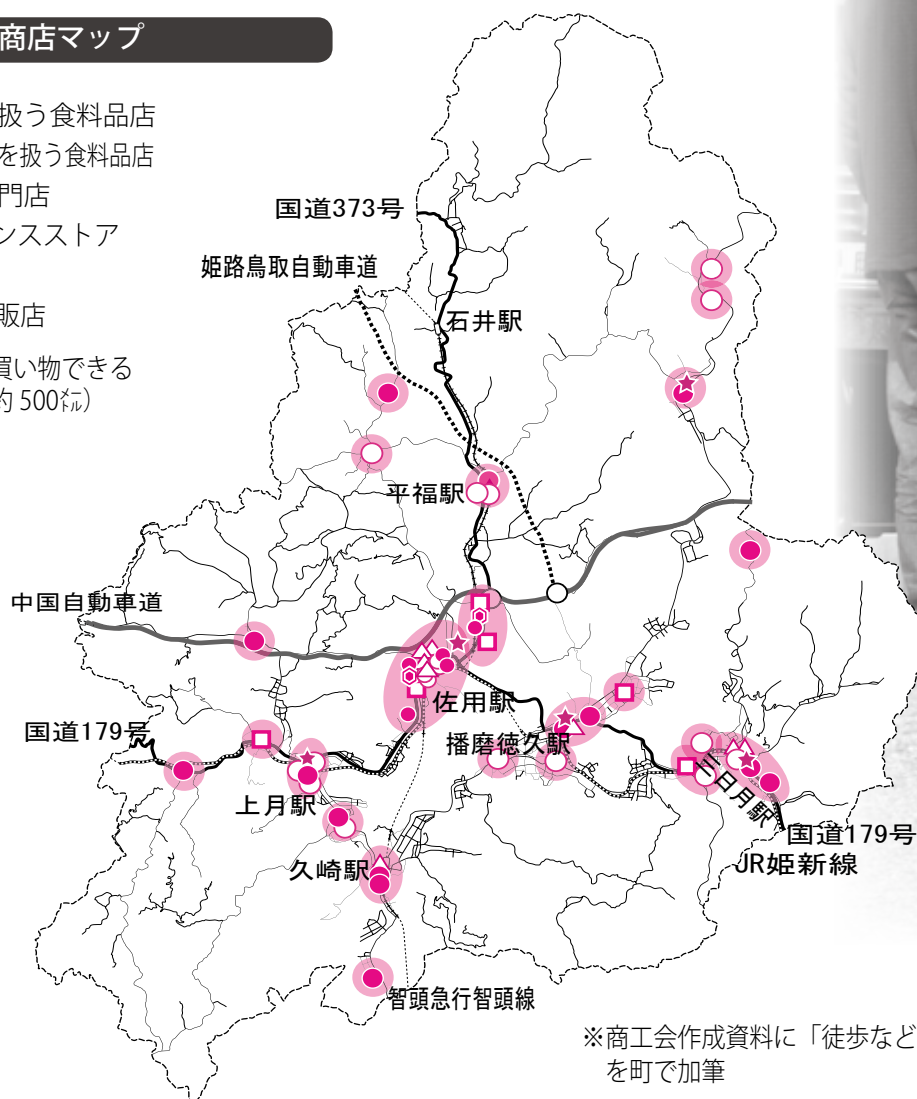
全国の中山間地域の例にもれず、佐用町にも「買い物弱者」が存在します。背景にあるのは商店の消失と高齢化。人口減少で商店経営が悪化。後継ぎがでず廃業という悪循環が続き、暮らしを支えた数々の商店が姿を消しました。昭和45年に489店あった小売店は、平成19年には281店まで減少する一方、高齢化率は昭和40年に比べ、今は約3倍にも伸びています（上記データ参照）。

古里の暮らしを守

暮らしに不可欠な『買い物』。佐用町では、この日常に課題が生じています。それは人口減少と商店（街）の衰退で身近な商店が消え、買い物が困難になっている人たち、いわゆる『買い物弱者』と呼ばれる人が増えているからです。そこで今月号広報では『買い物弱者』をテーマに、佐用町のまちづくりを考えます。

商店マップ

- 生鮮食品を扱う食料品店
- 生鮮食品以外を扱う食料品店
- △ 肉や魚の専門店
- コンビニエンスストア
- ★ J A
- ⬡ 日用雑貨量販店
- 徒歩などで買い物できる範囲（半径約500m）



※商工会作成資料に「徒歩などで買い物できる範囲」を町で加筆

結果、移動手段を持たない高齢者の暮らしを直撃しています。

命に直結する「買い物」は新たな生活課題

買い物が困難な地域は、町内にどのくらいあるのでしょうか。それを明示したのが上の「商店マップ」。このマップは、商店の位置と、徒歩で買い物できる範囲を、商店を中心に半径約500mと設定し、示しています。

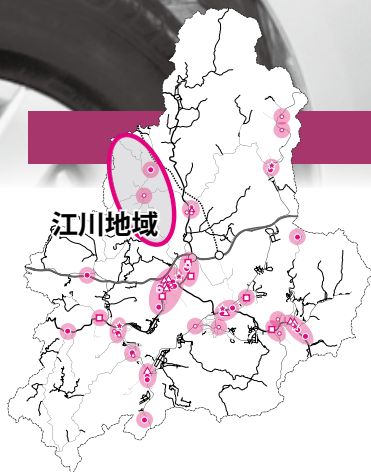
佐用町の高齢化率は県下でもトップクラス。山あいに限界集落もあり、このマップから「買い物弱者」が存在することが容易に推測できます。佐用町の買い物を取り巻く環境は深刻です。また高齢で車の運転をあきらめざるをえない人も増えてきます。だれにとってもこの問題は、人ごとでは片付けられません。

「買い物」は医療や介護と同様、生命の維持に直結します。いわば、佐用町の新たな生活課題です。

私たちは今、この課題に正面から向き合わなければならない時期を迎えています。



Action① 地域交通実証運行



"笑顔"を運ぶ江川ふれあい号

「買い物弱者」は移動手段を持たない「交通弱者」とも言えます。江川地域づくり協議会では地域交通の自主運営をめざし、10月から実証運行を始めました。その名は「江川ふれあい号」。スタッフの『地域愛』に迫ります。

者宅を確認。「あそここの家な。わかった」。

車の窓を拭き、点検を済ませ出発します。「26年間、バスの運転手をしとったんですわ。地域に貢献しようと思っただけ」と話しながら「江川ふれあい号」を走らせる小林さん。利用者宅に



打ち合わせ中の江見さん(中)と小林さん(右)

「ご苦労さん」。午前8時30分の始発の準備をするため、30分前に「江川ふれあいホール」にスタッフが集まります。「予約は5人や」。この日の受付担当の江見勝二さん(大島)と、運転手の小林育男さん(仁方)が早速打ち合わせを始めます。自宅から目的地まで送迎する仕組みのため、利用

地域力で
『医療・買い物弱者』を支える

外出支援策として、町も様々な事業を実施しています。その一部を紹介します。

■タクシー運賃助成

要介護者などを対象にした助成制度。助成券でタクシー運賃を最大2000円まで助成。12枚綴りの助成券は1冊1000円で、年間3冊まで購入可。

■コミバス佐用

佐用と船越間の路線バス廃止に伴ない代替設置したコミュニティバス。指定のバス停に停車。朝・昼・夕方方の3往復。1回300円(小学生150円)。



■さよさよサービス

自宅から目的地までを往復するバス。前日までの予約制で1回300円(64歳以下400円。小学生150円)。日・祝日以外運行。利用者の地区ごとに曜日指定があります(隔日)。





江川
 地域づくり協議会

商店(街)と地域に プラスになる運営をめざす

交通部長
東口仁朗さん

会長
木村政照さん

センター長
永本大作さん

始発利用の多くは通院。しかし診察後、ほとんどの人が買い物を行います。「お忘れ物がないように」「ありがとう」と言葉を交わし、

11の自治会で構成する江川地域。約420世帯・約1200人が居住し、高齢化率は約37%。以前は路線バスもありましたが、昨年10月に休止となりました。そこで4年前から地域交通の自主運営を模索していた江川地域づくり協議会が、町の支援を受け、『さよさよサービス』の形態をベースに10月から運行に踏み切りました。



乗車する有本富子さん(淀)。
 「お世話になります」

到着すると自動ドアを開け「どうぞ」と笑顔で迎えます。全員が乗車すれば、約15分かけ、町中心部へと走ります。

運行前には、商工会へ営業にも出向きました。「車内に特売チラシを置くこともできます。車内はアイデ

「バスで商店(街)と地域の絆をつくる」
 「商店(街)と連携した展開をしたい」。同協議会会長の木村政照さん(福沢)は、以前からそんな構想を温めていました。買い物で『江川ふれあい号』を利用する人の多くは、大型店舗に流れています。木村さんは大型店舗以外にも、商店(街)への利用も促し、町の活性化につなげたい夢があります。

利用者は目的地で300円分の乗車チケットを支払い、降りて行きます。運行責任者で、同協議会交通部長の東口仁朗さん(甲大木谷)は、「安全第一」がモットー。東口さんは、定期的に運転手のミーティングを行い、安全管理に努めています。
 「運行は順調」と東口さん。地域の新たな歩みに目を細めました。

運行はまだ始まったばかり。スタッフの様々な思いと地域住民の笑顔を乗せて、『江川ふれあい号』は今日も走り続けます。

「商店(街)と江川地域に、プラスになる運営をめざさなアカン」。木村さんと永本さんは、『江川ふれあい号』がそんな役割を担うことを、心から願っています。しかし、商店(街)側の動きは、まだ多くはありません。両氏は今後、商店(街)と話し合いの場を設け、積極的な活用を呼びかける予定で

「商店(街)へ積極的な活用を呼びかけたい」
 ア次第で様々な活用ができる。それが地域運営のメ리트。木村さんは『江川ふれあい号』が地域と商店(街)の絆を深めるバスであると考えています。
 「車内が商店(街)の情報であふれば便利。利用者増にもつながり一石二鳥や」。同協議会センター長の永本大作さん(末包)も木村さんと同じ考えです。

DATA 江川ふれあい号



土・日・祝日以外に運行。江川地域から町中心部まで1日4往復し、希望の場所で乗り降り可能。予約は出発時刻の1時間前(始発のみ前日)まで。運賃は1回300円(小学生以下は無料)。車は町から10人乗りの公用車を貸与。町運営の『さよさよサービス』との違いは「①毎日運行②当日予約が可能③小学生以下は無料」であること。受付員は4人、運転手は19人(控え含む)。

町の公共交通主要事業

■三日月～播磨科学公園都市線

J R三日月駅から播磨科学公園都市を民間バス会社との協働で運行。朝・昼・夕方の3往復。指定のバス停に停車。運賃は民間バス会社が規定する料金。

暮らしを支える新たな絆

きずな

商店が無いなら、商品を運び販売する。復興に取り組む「町防災に強い地域づくり推進協議会」が、石井・海内の両地域づくり協議会や商工会などと協働し、週一回、移動販売車を走らせる社会実験を実施しています。その効果と課題を探ります。

売ることだけが目的ではない

好天の昼下がり。大船集落に、買い物袋を持った一人の高齢女性が、道端に杖をついて歩いてきました。その後、次々と高齢者が集まります。「まだかいな」。

しばらくすると移動販売車が到着。車のスピーカーから流れる音楽が、静かな山あいに響きます。「今日はええ魚が入っとるで」。車の荷台を開けながら、小寺文道さん（久崎）が威勢よく話します。



利用者と会話する小寺さん

集まった皆さんは早速、買い物かごを持って品定め。「このみかん、甘いんか」「露地ものやから、甘みも酸味もあっておいしいで」。並んでいる商品は千点を超えますが、セールスポイントを熟知する小寺さん。1か所の停留時間は30分



おやつを買いに子どもたちもやってきます

足らず。社会実験のため忙しい合間をぬって、利用者数や売れた商品を書き留めます。その後、小寺さんは次の停留場所へせわしなく車を走らせます。

次は上石井集落。いつもは8人の利用者が今日は4人。「他の人は」と安否を気づかう小寺さんに「予定があるんやて」と理由を伝える利用者の皆さん。どの停留場所でも利用者の安否確認をする小寺さん。利用者との間に、新たな絆が生まれています。売ることだけが目的ではありません。

この事業は、復興に向け商工会や地域づくり協議会などで組織する『町防災に強い地域づくり推進協議会』が、国の補助で行う社会実験。昨年度から2か年の限定で毎週土曜日、午前

に海内地域へ、午後は石井

地域に、移動販売車を走らせます。一日の移動距離は100キロにもおよびます。

一般的に、移動に伴う経費がかさみ、仕入れロスが出やすいため、移動販売は商いとして難しいと言われる。しかし「待つとる人がおるから」と、小寺さんは大急ぎで、次の場所へと向かいました。

ちくわ一本も買えない暮らし

約250世帯、約720人が居住する石井地域（海内・桑野を除く）は、9つの自治会があり、高齢化率は約40%。高齢化が進んだ山あいの地域です。

「子どものとき、集落に一つは商店があつたんや」と、指折り数えながら話す石井地域づくり協議会会長の山下祐一さん（青木）。かつては食料品店も多く、

Interview ①

利用できるときはいつも利用しています。家の近所で買い物できるのは、本当に助かり、ありがたいと思います。

小寺さんや、集まった友だちとおしゃべりもできて、コミュニケーションの場にもなっています。それも楽しみの一つです。

品物を見て買えるのが一番



谷節子さん・谷とみ子さん・谷口とく江さん
（上石井）（上石井）（青木）



井原かつよさん・田中美恵子さん・衣笠靖子さん
（大船）（大船）（大船）

コミュニケーションも
楽しみの一つ



所狭しと商品が並ぶ移動販売車。この日も多くの高齢者が食料品などを買求めました（大船集落）

移動手段が無くても、不由のない暮らしでした。しかし時代の流れとともに人口は激減。商店も路線バスも今はありません。頼みの綱であった移動販売車も、昨年の水害で撤退しました。「ちくわの一本も買えん不自由な暮らしをした人もいたことでしょう」と同協議会センター長の蓮谷善亮さん（上石井）。そんな中、移動販売が再開し、両氏は一安心しました。

さらなる協働がカギ

しかし「問題なのはこれからです」と蓮谷さんの表情が曇ります。なぜなら社会実験は本年度で終了。その後の具体的な対応は、まだ決まっていけません。「山間地域の自助努力だけでは、手に負えない大きな課題や」と両氏は嘆きます。いかに移動販売事業を守るか。地域の暮らしを左右する大きな課題です。その解決のカギは、地域、商店（街）、行政の協働。石井地域は今、新たな局面を迎えてようとしています。



石井
地域づくり協議会

自助努力のみでは手に負えない

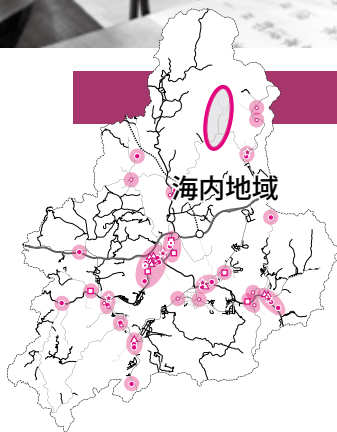
会長 山下祐一 さん

センター長 蓮谷善亮 さん

Interview ②

調味料やおかずなど、なんでもそろっていて、とても便利。ほぼ毎週利用しています。単車に乗って買い物に出かけるのも危なくなってきたので、本当に助かっています。

何よりも、自分の目で品物を見て、納得して買い物ができるのがうれしいです。



Action③ チャレンジ移動商店街

楽しさが生む地域の未来

海内地域の静かな夜に、突如出現した飲食店。同地域では先述の石井地域と同様、移動販売の社会実験が行われています。それに加えて商店が丸ごと移動する「チャレンジ移動商店街」が実施され、臨時の移動飲食店が開店しました。

回を重ねるごとににぎわった
「イナカーデ」

「来場者が減るのでは、という心配をよそに、毎回増えたんです。身近で外食気分を味わうのが楽しかったんやろね」と海内地域づくり協議会センター長の井上和夫さん（海内）は、笑みを浮かべながら当時を振り返りました。

海内地域は、海内・桑野の2つの自治会から構成され、約80世帯・約240人が暮らす小さな地域。高齢化率は40割にのびります。

かつてあった商店は姿を消し、移動手段を持たない高齢者も多く存在します。買い物は食材の配達や、ご近所の助け合いで行われているのが実情です。外食にいたっては、町内の飲食店に行くにも、タクシーで往復8千円以上かかります。

そんな中、国の補助を受け活動する「町防災に強い地域づくり推進協議会」と海内地域づくり協議会や商工会が協働し、移動飲食店「イナカーデ」が、みうち

若杉館で試験実施されました。この事業には商工会青年部が全面的に支援。1月から3月の間、計3回、出張飲食店が開店しました。

商店（街）との間に生まれた絆きずな

「こんばんわ。お世話になります」。夕方5時半の開始を前に、次々と集まる地域の人たち。会場は毎回70〜80人と満杯でした。

「移動手段のない高齢者は、ご近所の協力で送迎もしました。家族ぐるみの参加も多く、みんな本当に楽しそうやったな」と、海内地域づくり協議会会長の柴田義美さん（桑野）は、うれしそうに話します。



友だち同士で楽しい
ディナータイム

評判は上々。「海内地域から離れた商店（街）が身

県下で活躍する『春待ちファミリーBAND』のコンサート。愉快的音楽とおいしい料理を楽しみました



へ
近に感じられるようになり
ました」と声をそろえる両
氏。
山間地域と商工会、行政
など、多様な主体が協働し
た移動商店街。単に「外食」
の場を作っただけでなく、
地域と商店（街）の新たな
絆も生まれました。



小さな子どもも楽しめました

継続・発展に頭をひねる

『イナカード』は試験的
な取り組み。しかし、継続
実施を望む声も多く、他の
地域からの出店要望も出て
います。

井上さんは「飲食店以外
に、食料品や日用品、洋服
など、店舗を増やせば、買
い物にも便利や」と話す一
方「あまり無理も言えんし
な」と口が重くなります。
継続実施には、いくつか課

題があります。

「出張によるコスト増で、
お店の収益が低いと聞いて
います。また業種によつて
も需要も異なります。商店
に奉仕してもらうわけには
いかん」と話す井上さん。
コスト削減に地域で何かで
きないか、頭をひねります。
また、柴田さんは地域の
運営スタッフ不足を指摘し

ます。しかし「力を貸して
くださった多くの人たちに
感謝の気持ちを伝えるため
にも、私たちの力を結集し、
必ず実施してみせます。こ
のきっかけを無駄にはしま
せん」と意気込みます。
海内地域と商店（街）に
生まれた新たな絆。一筋の
光明となつて、地域の未来
を照らしています。



海内
地域づくり協議会

**コストの削減に協力し
買い物にも便利な事業へ**

会長 柴田義美 さん

センター長 井上和夫 さん



『山間地域とまちなか連携シンポジウム』開催

買い物弱者と商店(街)の 共栄を探る

『買い物弱者』を支えるまちづくりには、衰退する商店(街)との共栄を考えなければなりません。そんな課題と向き合う『さようまち・むら両立プロジェクト協議会(会長:谷本学さん(上町))』が11月9日、さよう文化情報センターで『山間地域とまちなか連携シンポジウム』を開催しました。同協議会は県の補助を受け、地域づくり協議会や商工会などで10月に発足した新たな組織。今回のシンポジウムには商店主や地域住民など約80人が参加し、『買い物弱者』問題と真剣に向き合いました。なおシンポジウムのもようは、佐用チャンネルで12月17日(金)から2週間放映されます。

木下斉さん基調講演

地域力で解決することが 持続可能な仕組みを生む

一人ひとりの知恵と力が
課題解決に導く

「暮らしの不便さを、だれかが解決してくれる時代は終わりました」。木下さんは冒頭、参加者にキツパリと切りました。

国も多額の借金を背負っています。行政の財政状況は苦しくなる一方、中山間地域では買い物弱者問題など、生活課題が次々と発生し、地域での暮らしを揺る

がしています。

そんな中、木下さんは、中山間地域の暮らしを守るには『自分ならこう協力できる』と、地域住民みんなで知恵を出し合い、だれが、どのように解決するのかを考える必要性を説きます。

さらに「買い物弱者問題は全国的な課題です。その一歩を踏み出す佐用町は先進地と言えます。さらに一歩を踏み出し、新たなモデルを構築しましょう」と参

Profile

さようまち・むら両立プロジェクト協議会
アドバイザー

木下 斉(きのした●ひとし)

1982年、東京生まれ。有限責任事業組合市街地経営研究機構代表。商店街活性化で有名な早稲田商店街プロジェクトの中心メンバーとして事業に参画。2000年には全国的な商店街の共同出資会社を設立。高校生で初代社長に就任。同年、『IT革命』で新語流行語大賞を受賞。現在は全国の市街地活性化のほか、米国・欧州の市街地研究も手掛けている。

先進地に学ぶ

住民・商店・行政で
負の連鎖を断ち切る

鳥取県江府町

鳥取県西部に位置し、人口約3500人、高齢化率が約40%、買い物弱者世帯が10%を超える江府町。ここでは地域住民と商店、行政の協働で、移動販売車「ひまわり号」を町内くまなく走らせ、買い物弱者の暮らしを守っています。11月5日、『さようまち・むら両立プロジェクト協議会』のメンバーが、同町へ視察研修に出向きました。

ここでは同町内で商店を経営する(有)安達商事が



木下さんの話を熱心に聴く参加者

↑
 加者に呼びかけました。

「住民出資」「買い支え」が
 持続可能な仕組みを作る

買い物に困るなら、移動販売ルートを増やせば良い。そんな容易な発想に、木下さんは「困るというわりには、移動販売車を走らせても買ってくれません。結果、消滅します」と苦言を呈します。

その回避には「地域住民で、お金を少しずつ出して、自分たちの仕組みを作る。また地域住民がその仕組みを使う約束をすること」と続けます。つまり、行政の補助金だけに頼り切るのではなく『住民出資』と『買い支え』が、将来も持続する仕組みであることを示唆しました。

大切なのは、出資をしても、地域に移動販売が必要かどうかを議論すること。必要ならば、出資金を世帯一口数千円、世帯での買い物利用月額を数千円と具体的に決めて、自分たちでサービスを作り出す方法を提案しました。

収益の高い事業で
 非収益事業をカバー

地域住民の力で、買い物の場を運営する全国の事例から、熊本県荒尾市の徒歩圏内マーケット、京都府京丹後市の(有)常吉村営百貨店、山形県鶴岡市のまちづくり共同組合「虹」の取り組みが紹介されました。

3例は商店同士が組合を作ったり、住民出資で新たに起業したりと形態は様々。そしてワイン工房を運営したり、宅急便の集配業務を扱ったり、医療・介護サービスを展開したりして、買い物の場以外に、多様な展開を見せています。共通するのは、行政の補助金に頼らない運営のため、しほりがなく自由に運営している点。その利点を生かし、事業を多様化させ、収益が高い事業で買い物弱者支援などの収益が低い事業をカバーしている点です。木下さんは「佐用町ではどんな形態がベストなのか。良いモデルを生み出して欲しい」と期待を込めて、講義をくりまりました。



「この町と人が好き」と話す安達さん

「この町を愛する気持ちが原動力」とやさしく語る同商事代表取締役の安達享司さん。そして「地域とともに仕事をし、雇用を生み、過疎と少子高齢化の負の連鎖を断ち切るため、頑張ります」と力を込めました。



「ひまわり号」を視察するメンバー



持続可能な「佐用町モデル」をどう作るか

多様な夢が未来を築く

「夢」は人を行動させます。一人ひとりの行動が佐用町を少しずつ「夢」に近づけます。基調講演をヒントに、木下斉さんと谷本学会長が、参加者とともに『買い物弱者』と商店（街）が共栄し、将来も持続可能な仕組みをどう作るかを話し合いました。会場は様々な立場からの「夢」が交錯。持続可能な「佐用町モデル」を構築するためのいくつかのヒントが生まれました。進行は「さようまち・むら両立プロジェクト協議会」委員の榎原昌彦さん（三田市）が務めました。



●キラキラっ子ママプラザ参加者
黒澤絵里さん 武田明日花さん
(柴谷) (大坪)

子育て奮闘中のママは仕事を辞めて、自分の資格や特技を生かす場がありません。私たちの周りには、子ども服を手作りできたり、お菓子作りがプロ並みだったりする友人がたくさんいます。

11月3日、佐用商店街の空き店舗を改修してできた「子育てほっとステーション[★]缶[★]環[★]館」で、友だち4人で子ども服などのフリーマーケットを開きました。自分の特技も生かせるし、少しだけ収益もありました。

ママ世代が商店街とつながり、活躍できることはとても素晴らしいと思います。



●海内地域づくり協議会
会長
柴田義美さん(桑野)

地域を巡回していただいている移動販売車は、子どもも集まり、にぎやかな交流の場となっています。特に普段利用する人が来なければ、安否確認の場にもなり、ありがたいと思っています。停車場も、10月から1か所増えて、さらに利用者に近くなって便利になりました。

私たちが考えなければならないのは、急速に高齢化が進む中、買い物に困っている人たちとどう向き合っていくのか、という点。「私が代わりに買ってきますよ」という取り組みが、とても大切になると思います。



●町商工会青年部
北村広樹さん(上町)

海内地域の移動飲食店「イナカーデ」には、協力店舗として参加しました。

1回目は店の機材すべてを搬入し、新メニューを作ったのぞみ、大きな赤字を生みました。2回目はメニューを減らす一方、協力店舗を増やして収支は「とんとん」。3回目はバイキング方式で人件費を削減し、ようやく収益を出せました。

3回の実験で、地域や商工会、他の店舗の協力があれば、何とかかなりそうなところまでこぎつけました。待っていただいている、喜んでもらえる声にこたえ、継続して取り組みたいと思います。

空き店舗で特技を生かしたい

買い物代行などの支え合いが大切

「イナカーデ」は継続させる



地域の規格外野菜を大阪市で販売するため、その取り組みをする島根県の『学生マルシェ』代表の後藤匡彬さん（写真奥）と打ち合わせする地域づくり協議会の人たち（10月14日）



子育てほっとステーション佐★環★館（11月3日）



江川ふれあい号の出発式（9月30日）



●兵庫県職員
チャレンジプログラム
上平健太さん 大宮慶子さん

私たちは佐用町の様々な取り組みを研究し、地域の自立を支える仕組みづくりを提案します。

地域内でお金が循環しないため、商店（街）は衰退し、欲しいものが身近で買えなくなり、働く場所もなくなります。結果、若者が町に住めなくなります。

この悪循環を断ち切るには、地域内でお金が循環する仕組みが何より大切です。実現には、住民参加のもとで「①お金を出したくなる商品・サービスを作る」「②買うための手段を作る」「③提供側が損をしない仕組みを作る」ことが必要です。



●佐用商店会会長
桑田英男さん（中町）

町や地域で様々な外出支援事業が運行されています。それを利用して、ぜひ地元の商店街をご利用いただきたいと思います。佐用商店会でも、コミュニティバスでご利用いただいた皆さんには、バスチケットをお渡しするなどのサービスも検討していきたいと思っています。

基調講演で木下さんがおっしゃった『住民出資』での経営のお話は「すごい」の一言。もし実現すれば、出資した人も意識が変わり、買い支えも実現できることでしょう。そして、高齢者の豊かな生活を守るでしょう。

CROSS TALK

写真左から、進行の榊原昌彦さん、木下さん、谷本会長。榊原さんは昨年の災害以降、佐用町の復興に取り組んでいます。



●NPO 法人あさぎり
花尾より子さん（上長尾）

私たちは平成13年から小規模作業所を運営し、障がい者の社会参加をめざすNPO法人です。

当作業所の皆さんは内職や軽作業を行うほか、各種イベントにバザーで参加するなど、障がい者の社会参加を前向きに進めています。今は当作業所にも『地域とかかわりたい』と願う人が増えています。

もし可能であれば、移動販売で障がい者が作った製品を、商品として販売できればと考えます。障がい者が地域にかかわりをもつことで、大きな励みにもつながるのではないかと思います。

製品供給で障がい者も参画したい

コミバスで商店街へ来て欲しい

「お金の地域内循環」をめざせ

『買い物弱者』問題は 町を豊かにする原動力

佐用町モデルは2階建て方式です。土台の1階を、コミュニティバスの利用や買い支え、住民出資で支える。そして2階はコミュニティバスの空席などを利用し、商品を運んだり、移動販売の帰りに野菜を持ち帰り、空き店舗で販売したりするなど、上乘せする部分です。こういった方法が地域の暮らしを豊かにすると思います。

地域経済活性化の方程式は、町外から収入を得る『①流入増加』、利用や買い支えをする『②循環促進』、人とお金を外部に出さな

い『③流出減少』です。この方程式を実行する力がなければ、活性化はありえないし、『買い物弱者』と商店（街）は共栄しません。

佐用町は多くの人たちが、自信に満ちた様々な取り組みをされています。この方程式を実行する力を持っています。

ちょっとした一歩の積み重ねが、大きな進歩となり、地域が変わります。『買い物弱者』問題は、まさに地域を豊かにする原動力であるように、皆さんで地域を導いてほしいと願っています。



●さようまち・むら両立プロジェクト協議会会長

谷本 学^{さん}(上町)

移動販売もイナカードも、地域の皆さんが待ち望み、喜ばれる取り組みです。現状では営利にはなかなか結びつきませんが「佐用町を愛する」からこそ、将来も持続する新たな仕組みを探りたいと思います。

昨年8月の災害後、1年4か月が経過し、被災商店の調査を行いました。店じまいするかの心が揺れるほど厳しい状況です。ぜひ、地域の商店(街)を利用してほしいと思います。「お金の地域内循環」をしていただくことで、商売人も頑張れ、地域にも貢献できることにつながります。



●石井地域づくり協議会会長

山下祐一^{さん}(青木)

島根県の規格外野菜を大阪へ運び販売している島根大学の学生たち『学生マルシェ』。その協力で、大阪へ行く際に、私たちが作った野菜を大阪市内の商店街で販売する取り組みを、11月から試験的に始めました。

各家庭で自給するための野菜を少し多めに作って販売し、年金プラス1万円をめざせば、少し小遣いが増えるし、消費も拡大します。そして高齢者の生きがいにもつながります。

都市部では、手すきの和紙も重宝がられます。石井地域の和紙も販売したいと思います。



●佐用地域づくり協議会センター長

倉部次男^{さん}(上町)

私たちの協議会は、非常に大きな地域を網羅する組織。その中に商店街もあります。日ごろはコミュニティ活動の活性化に取り組んでいます。

移動販売をした帰りの便に、その地で収穫された農産物を持ち帰り、商店街の空き店舗で販売してはどうでしょうか。そうすれば石井・海内地域と商店街の交流も深まります。収益は小さいかもしれませんが、互いに絆が生まれ、活性化につながるのではと思います。

今後は「お金の地域内循環」につながるようなコミュニティ活動にも努力していきます。

町を愛するからこそ新たな仕組みをつくる

規格外野菜の販売で「外貨流入」を

空き店舗の活用で町内の「まち・むら連携」

取材を終えて

「週に一回きてくれて、ほんまにありがたい」「私ら一人暮らしやし、自分でどこへでも行かれへんでなあ」。社会実験で走る移動販売車取材した際、多くの高齢者から出た感謝の声です。たくさんの食料品が詰まった買い物袋を手押し車に入れ、少し背を曲げて帰る高齢者の顔からは、安堵の表情がうかがえました。

佐用町のような中山間地域はこれまで、様々な時代の波に飲まれてきました。激しい人口の流出や農林業の衰退のほか、近年では少子高齢化で集落機能を維持できない「限界集落」が問題となりました。さらには商圈人口の減少と車社会の進展で、商店（街）の衰退が深刻化。全国各地に『買い物弱者』が生まれました。経済産業省は『買い物弱者』人口を、全国で約600万人と推計しています。

これまで経営努力のみで語られてきた町内の商店（街）。しかし『買い物弱者』の視点に立てば、身近な商店（街）は、暮らしに不可欠なライフラインの一面を持っていることに気づきます。そして買い物は命に直結しながらも、医療・介護のように、みんなで支えあう公的制度がありません。ライフラインである移動販売や身近な商店（街）がこれ以上衰退・廃業しないよう、地域住民の利用で守る意識が、高齢化が進む佐用町には必要です。

今回紹介した町内の様々な事例には、商店（街）と地域の絆を作ろうとする人々、はぐくもうとする人々、絆で新たな地域を作ろうと汗する人々の姿がありました。またシンポジウムでは、課題を共有する中で参加者同士に新たな絆が生まれました。それらの絆はさらに広がりを見せ、住民の参画と協働を促し、『買い物弱者』と商店（街）が共栄し、持続可能な仕組み＝「佐用町モデル」へと発展します。

絆こそまさに、支え合って助け合う「協働のまちづくり」の原点。合併以降、地域住民と行政で取り組んできた佐用町の「協働のまちづくり」があらためて原点に立ち、今後、新たな展開を始めます。

特集 『買い物弱者』を支えるまちづくり
古里の暮らしを守る（おわり）

参考文献

- 『地域生活インフラを支える流通のあり方研究会報告書
～地域社会とともに生きる流通～』（経済産業省）
- 『買物難民 ―もうひとつの高齢者問題』 杉田 聡著（大月書店）
- 『農山村再生 「限界集落問題」を超えて』 小田切 徳美著（岩波書店）

「支え合い」「助け合い」がまちづくりの原点



● 経済産業省流通政策課
課長補佐

加藤 弘さ

流通政策課で買い物弱者対策に取り組んでいます。今、少子高齢化の中で、流通業に変化が求められています。かつては店で待っていれば人が集まる「集客型」でしたが、今は人前に出かけても、なかなか売れません。今後は顧客に接近する「接客型」ビジネスに変わらないといけない時代となりました。

佐用町には移動販売の帰便の活用、コミュニティバスと医療機関との連携、タクシーと商店（街）の連携など、埋没するニーズを掘り起こし、従来と異なるアプローチでのビジネスに期待します。

「接客型」ビジネスが求められている

期待 >

買い物を取り巻く環境の現状を把握するため、アンケートを実施します。アンケート結果は、今後の対策に使用します。アンケート用紙は本ページに折り込んでいます。皆さんの回答をお待ちしています。

アンケートにご協力ください

回答方法

- ①アンケート添付の封筒をはがしてください。
- ②アンケートに回答を書いてください。
- ③回答を添付の封筒に入れ、しっかり封をしてください。
のりづけは不要です。
- ④**切手を貼らず**にお近くの郵便ポストに投函してください。

町民の 買い物に関する実態調査



締切

平成23年

1月31日(月)

問 企画防災課まちづくり防災室・広報室 ☎ 82-0664

久崎商店街に遊びにおいて

久崎市

日時

12月26日(日) 午前10時～

場所

久崎商店街 周辺

久崎地域づくり協議会では、恒例の久崎市を開催します。地域住民手づくりの歳の市を、ぜひお楽しみください。

■内容 集落、商店、団体などによる正月用品などの販売、模擬店、ゲームなどを行うほか、ステージイベントもあります。

問 久崎地域づくり協議会（上月支所地域振興室）

☎ 86-1210



楽しい催しがもりだくさん（写真は前回の久崎市）

かわいい
観光大使を
考えて

ゆるキャラ大募集

観光PRのため、町のイメージキャラクターを募集します。キャラクターは各種イベントやキャンペーンで広く活用します。

- **応募資格** どなたでも応募できます。
- **応募期間** 来年1月7日〇消印有効
- **応募方法** 専用の応募用紙、またはA4版用紙に次の事項を記載の上、郵送、持参、電子メールでご応募ください。画材は自由です。

- ①キャラクター図案(カラー) 前面・後面
- ②キャラクターのコンセプト
- ③キャラクターの名前(愛称)

※名前は必ず採用するとは限りません。

- ④住所・お名前・電話番号・FAX番号・メールアドレス・職業または学校名(学年)

※電子メールの応募の場合は1.5MB以内でお願いします。またメール本文に②～④を記載し、①をjpgまたはPDF方式にて、A4版で添付してください。

■ テーマ

佐用町の歴史(人物・伝説・史跡)・文化(農業・産業・祭・伝統文化・食文化) 自然(動物・植物・景観)などをモチーフとした親しみやすいもの

■ 応募規定 (詳細はお問い合わせください)

- ①何点でも応募可(ただし1枚1作品)。
- ②応募作品は他の商標などと類似していないも

ので、自作未発表のものに限ります。

③応募作品はお返ししません。

④採用作品の著作権、使用権などは佐用町観光協会に帰属します。採用作品は一部補作、修正する場合があります。

■ **選考方法** 選考委員会で決定します。

■ 賞と副賞

最優秀賞 1点・町特産品詰め合わせ 10万円相当
※年数回に分けて送付します。

優秀賞 2点・町特産品詰め合わせ

■ **その他** 応募用紙は商工観光課、各支所・出張所にあります。また町ホームページからもダウンロードできます。

町ホームページ <http://www.town.sayo.lg.jp/>

応募先・お問い合わせ

〒679-5380

佐用町佐用 2611 番地 1

佐用町役場 佐用町観光協会事務局
(商工観光課内)

☎ 82-0670

メールアドレス chara@town.sayo.lg.jp



コロタンと記念撮影する子どもたち

しかコロッケPRキャラクターの名前が決まる

ボクの名前は

コロたん

佐用名物である「しかコロッケ」をPRするかわいいシカの名前が決まりました。イメージにぴったりの「コロたん」と命名されました。

町商工会青年部が、9月15日から10月25日まで、キャラクターにあう名前を広く募集。結果、262点の応募がありました。

名前は11月3日、佐用商店街で開催された大収穫祭で披露され、命名した谷口聖子さん(上長尾)が名前を呼ぶと、愛らしく手を振りお目見え。その後は、子どもたちとの写真撮影に応じていました。

金メダルと記録証
を手に笑顔を見せる
福井さん



全国障がい者スポーツ大会「ゆめ半島千葉大会」

福井美咲さん(力万) 卓球で金メダル

おめでとう
これからも
頑張って

昨年のくやしさをバネに

10月22日と23日、千葉県で行われた全国障がい者スポーツ大会に、福井美咲さん(力万)が卓球で出場し、ブロックナンバー403で金メダル(1位)を獲得しました。福井さんは播磨特別支援学校高等部の3年生。「本当にうれしい」と輝く笑顔を見せました。

同大会は、障がいのあるかたが競技を通じてその楽しさを体験するスポーツの祭典。毎年全国各地から多くの選手が集い、競技を通じて交流を深めています。

スポーツが大好きな福井さんは小学3年生から上月卓球教室に所属。数少ない小学生メンバーの一人として、小さなころから大人とともに技を磨いてきました。

その後同校に進学。昨年、新潟県で開催された同大会に兵庫県の選手として初出場した福井さん。しかし善戦するも惜敗。そのときのくやしさをバ

ネに、さらに練習に励んできました。

これまで応援してくださった
みんなに感謝

今年も兵庫県選手団86人の一人となり、目標だった金メダルを獲得。「2年連続出場のうれしさと、昨年のくやしさを力に変えて頑張りました」とメダルを見せる福井さんは「これまで指導や応援してくださった皆さんに、お礼を言いたいです」と感謝の気持ちも忘れません。



「今後も卓球を楽しみたい」と練習する福井さん

今は卓球以外に、同校音楽部でバスキーボードにも挑戦している福井さん。思い出の1ページを胸に、今日も充実した学校生活を楽しんでいきます。

がんばった人たちに

みんなのスポーツ

(敬称略)

議長杯ゲートボール大会

■開催日 10月29日

■場所 南光スポーツ公園

優勝 ひまわり

準優勝 大木谷

第3位 田此

佐用郡少年柔剣道交歓大会

■開催日 10月31日

■場所 上月中学校体育館

【柔道団体戦の部】

小学生の部

優勝 上月蛍柔館A

準優勝 上月蛍柔館B

第3位 上月蛍柔館D

【柔道個人戦の部】

幼年の部

優勝 中嶋琉偉

準優勝 繁延 陸

第3位 森元くるみ

小学1年生の部

優勝 中嶋悠陽

準優勝 森元遼雅

第3位 幸田丈二郎

小学2年生の部

優勝 寺本照英

準優勝 寺本龍生

第3位 岡本光平

小学3年生の部

優勝 森元杏奈

準優勝 藤元冬馬

第3位 上月蛍柔館

小学4年生の部

優勝 嶋田拓真

準優勝 井平裕隆

第3位 藤元柊伍

小学5年生の部

優勝 大西剛樹

準優勝 山口想羅

第3位 横山 諒

小学6年生の部

優勝 上月蛍柔館

準優勝 上月蛍柔館

第3位 上月蛍柔館

小学7年生の部

優勝 上月蛍柔館

準優勝 上月蛍柔館

第3位 上月蛍柔館

小学8年生の部

優勝 上月蛍柔館

準優勝 上月蛍柔館

第3位 上月蛍柔館

小学9年生の部

優勝 上月蛍柔館

準優勝 上月蛍柔館

第3位 上月蛍柔館

小学10年生の部

優勝 上月蛍柔館

準優勝 上月蛍柔館

第3位 上月蛍柔館

小学11年生の部

優勝 上月蛍柔館

準優勝 上月蛍柔館

第3位 上月蛍柔館

小学12年生の部

優勝 上月蛍柔館

準優勝 上月蛍柔館

第3位 上月蛍柔館

小学13年生の部

優勝 上月蛍柔館

準優勝 上月蛍柔館

第3位 上月蛍柔館

小学14年生の部

優勝 上月蛍柔館

準優勝 上月蛍柔館

第3位 上月蛍柔館

小学15年生の部

優勝 上月蛍柔館

準優勝 上月蛍柔館

第3位 上月蛍柔館

小学16年生の部

優勝 上月蛍柔館

第3位 上月蛍柔館

小学17年生の部

優勝 上月蛍柔館

準優勝 上月蛍柔館

第3位 上月蛍柔館

小学18年生の部

優勝 上月蛍柔館

準優勝 上月蛍柔館

第3位 上月蛍柔館

小学19年生の部

優勝 上月蛍柔館

準優勝 上月蛍柔館

第3位 上月蛍柔館

小学20年生の部

優勝 上月蛍柔館

準優勝 上月蛍柔館

第3位 上月蛍柔館

小学21年生の部

優勝 上月蛍柔館

準優勝 上月蛍柔館

第3位 上月蛍柔館

小学22年生の部

優勝 上月蛍柔館

準優勝 上月蛍柔館

第3位 上月蛍柔館

小学23年生の部

優勝 上月蛍柔館

第3位 上月蛍柔館

小学24年生の部

優勝 上月蛍柔館

準優勝 上月蛍柔館

第3位 上月蛍柔館

小学25年生の部

優勝 上月蛍柔館

準優勝 上月蛍柔館

第3位 上月蛍柔館

小学26年生の部

優勝 上月蛍柔館

準優勝 上月蛍柔館

第3位 上月蛍柔館

小学27年生の部

優勝 上月蛍柔館

準優勝 上月蛍柔館

第3位 上月蛍柔館

小学28年生の部

優勝 上月蛍柔館

準優勝 上月蛍柔館

第3位 上月蛍柔館

小学29年生の部

優勝 上月蛍柔館

準優勝 上月蛍柔館

第3位 上月蛍柔館

小学30年生の部

優勝 上月蛍柔館

第3位 上月蛍柔館

小学31年生の部

優勝 上月蛍柔館

準優勝 上月蛍柔館

第3位 上月蛍柔館

小学32年生の部

優勝 上月蛍柔館

準優勝 上月蛍柔館

第3位 上月蛍柔館

小学33年生の部

優勝 上月蛍柔館

準優勝 上月蛍柔館

第3位 上月蛍柔館

小学34年生の部

優勝 上月蛍柔館

準優勝 上月蛍柔館

第3位 上月蛍柔館

小学35年生の部

優勝 上月蛍柔館

準優勝 上月蛍柔館

第3位 上月蛍柔館

小学36年生の部

優勝 上月蛍柔館

準優勝 上月蛍柔館

第3位 上月蛍柔館

小学37年生の部

優勝 上月蛍柔館

第3位 上月蛍柔館

小学38年生の部

優勝 上月蛍柔館

準優勝 上月蛍柔館

第3位 上月蛍柔館

小学39年生の部

優勝 上月蛍柔館

準優勝 上月蛍柔館

第3位 上月蛍柔館

小学40年生の部

優勝 上月蛍柔館

準優勝 上月蛍柔館

第3位 上月蛍柔館

小学41年生の部

優勝 上月蛍柔館

準優勝 上月蛍柔館

第3位 上月蛍柔館

小学42年生の部

優勝 上月蛍柔館

準優勝 上月蛍柔館

第3位 上月蛍柔館

小学43年生の部

優勝 上月蛍柔館

準優勝 上月蛍柔館

第3位 上月蛍柔館

小学44年生の部

優勝 上月蛍柔館

第3位 上月蛍柔館

小学45年生の部

優勝 上月蛍柔館

準優勝 上月蛍柔館

第3位 上月蛍柔館

小学46年生の部

優勝 上月蛍柔館

準優勝 上月蛍柔館

第3位 上月蛍柔館

小学47年生の部

優勝 上月蛍柔館

準優勝 上月蛍柔館

第3位 上月蛍柔館

小学48年生の部

優勝 上月蛍柔館

準優勝 上月蛍柔館

第3位 上月蛍柔館

小学49年生の部

優勝 上月蛍柔館

準優勝 上月蛍柔館

第3位 上月蛍柔館

小学50年生の部

優勝 上月蛍柔館

準優勝 上月蛍柔館

第3位 上月蛍柔館

小学51年生の部

優勝 上月蛍柔館

第3位 上月蛍柔館

小学52年生の部

優勝 上月蛍柔館

準優勝 上月蛍柔館

第3位 上月蛍柔館

小学53年生の部

優勝 上月蛍柔館

準優勝 上月蛍柔館

第3位 上月蛍柔館

小学54年生の部

優勝 上月蛍柔館

準優勝 上月蛍柔館

第3位 上月蛍柔館

小学55年生の部

優勝 上月蛍柔館

準優勝 上月蛍柔館

第3位 上月蛍柔館

小学56年生の部

優勝 上月蛍柔館

準優勝 上月蛍柔館

第3位 上月蛍柔館

小学57年生の部

優勝 上月蛍柔館

準優勝 上月蛍柔館

第3位 上月蛍柔館

小学58年生の部

優勝 上月蛍柔館

第3位 上月蛍柔館

小学59年生の部

優勝 上月蛍柔館

準優勝 上月蛍柔館

第3位 上月蛍柔館

小学60年生の部

優勝 上月蛍柔館

準優勝 上月蛍柔館

第3位 上月蛍柔館

小学61年生の部

優勝 上月蛍柔館

準優勝 上月蛍柔館

第3位 上月蛍柔館



歓迎の言葉を述べる選手たち



力いっぱいプレーする選手たち（写真は久崎ジュニアバレーボールクラブ）

町内からも
8チームが
参加

ビスラカップ少女バレーボール大会

99^{チーム}約1000人が 町内7会場で熱戦

11月13日・14日の2日間、上月体育館など7会場で、第19回ビスラカップ少女バレーボール大会が開催されました。県内はもとより、遠くは島根県や鳥取県、京都府から99チーム、約千人の選手が参加。町内の多くのボランティアの力で、各会場で熱戦が繰り広げられました。

町内からは、佐用、利神、江川、上月、久崎、中安、徳久、三河の8チームが参加。初日、同体育館で行われた開会式では、選手たちはプラカードを持って元気よく入場行進。そして町内

8チームから盛本鈴華さん（上町）、岡本玲奈さん（大船）、小林由香さん（仁方）、永見明渚さん（上上月）、小寺さやかさん（久崎）、稲谷未来さん（中島）、段城衣舞さん（東徳久）、春名風夏さん（船越）が、参加者の前で、「昨年の災害で多くの人たちにお世話になりました。今日も力いっぱいがんばります」と歓迎の言葉を述べました。その後、各会場に分かれて試合が行われ、町内の8チームは惜しくも入賞を逃しましたが、持てる力を存分に発揮しました。

【剣道団体戦の部】 小学低学年の部 優勝 南光剣友会A 準優勝 上月剣友会 第3位 佐用双葉会B 小学高学年の部 優勝 南光剣友会 準優勝 上月剣友会 中学生の部 優勝 南光剣伸会C		小学6年生の部 優勝 嶋田哲吏 （上月蛭柔館） 中学生男子の部 優勝 坂井大良 （上月蛭柔館） 準優勝 安東 走 （三日月広道館） 第3位 石原俊太 （上月蛭柔館） 第3位 横山 潤 （上月蛭柔館） 中学生女子の部 優勝 安東歩花 （三日月広道館） 準優勝 岡田 風 （三日月広道館） 第3位 幸福咲実 （三日月広道館） 第3位 坂井夕稀 （上月蛭柔館）		【剣道個人戦の部】 小学1・2年生の部 優勝 萩原峻天 （佐用双葉会） 準優勝 國廣康介 （佐用双葉会） 第3位 清水咲良 （上月剣友会） 小学3・4年生の部 優勝 豊岡李矩 （南光剣友会） 準優勝 児嶋克哉 （上月剣友会） 第3位 植田真央 （佐用双葉会） 小学5・6年生の部 優勝 豊岡龍弥 （南光剣友会） 準優勝 児嶋初紀 （上月剣友会） 第3位 舟引千紘 （南光剣友会） 中学生の部 優勝 森崎 廉 （南光剣伸会） 準優勝 舟引千春 （南光剣伸会） 第3位 船引亜由美 （南光剣伸会）		準優勝 南光剣伸会A 第3位 南光剣伸会B 小学1・2年生の部 優勝 萩原峻天 （佐用双葉会） 準優勝 國廣康介 （佐用双葉会） 第3位 清水咲良 （上月剣友会） 小学3・4年生の部 優勝 豊岡李矩 （南光剣友会） 準優勝 児嶋克哉 （上月剣友会） 第3位 植田真央 （佐用双葉会） 小学5・6年生の部 優勝 豊岡龍弥 （南光剣友会） 準優勝 児嶋初紀 （上月剣友会） 第3位 舟引千紘 （南光剣友会） 中学生の部 優勝 森崎 廉 （南光剣伸会） 準優勝 舟引千春 （南光剣伸会） 第3位 船引亜由美 （南光剣伸会）	
--	--	--	--	---	--	---	--

祝

プロ野球ドラフト 広島東洋カープ1位指名
文部科学大臣杯全日本ゲートボール選手権大会

佐用スターズ出身 福井優也さん
優勝 きらり三日月チーム



バザー会場も大にぎわい



美しい歌声を披露した民謡こうづきの皆さん



上月会場
11/1~3

息を合わせて「ソーレ！」(なわとび大会)

さよう 文化祭

●4会場で大盛況に開催

10月30日から11月7日にかけて、4会場ですよう文化祭が開催されました。会場では芸能発表や作品展示、バザーなどの催しが行われ、多くの人たちでにぎわいました。その一部を写真でお伝えします。



楽しい司会で盛り上げた塚崎純さん(田此)と黒崎文子さん(徳平)



親子で絵手紙づくりに挑戦中



美声を披露した高年大学歌謡部

お茶席は佐用高校の生徒もお手伝い



佐用高校家政科と佐用保育園のファッションショー



三日月会場
11/6~7

三日月中学校3年生の「三中ソーラン」

佐用郡美術展 入賞作品が決まる

11月18日から21日の間、佐用勤労者体育センターで、佐用郡美術展が開催されました。部門ごとの入賞者は次のとおりです。（敬称略）

■町長賞

日本画	米田三枝(姫路市)	洋画	飛岡文夫(土井)
書	矢野嘉代子(櫛田)	写真	岡本敏和(仁方)
工芸	田中安彦(姫路市)		

■議長賞

日本画	祐保明美(判官)	洋画	平野あさみ(早瀬1)
書	三枝真由美(栄町)	写真	津村 豊(上郡町)
工芸	深澤都紀美(上郡町)		

■教育委員会賞

日本画	藤木久子(上長尾)	洋画	筏 忠敬(林崎)
書	坂本則子(仁位)	写真	末元正和(美作市)
工芸	井口萬寿雄(口長谷)		

■郡美術協会賞

日本画	嶋津裕子(口長谷)	洋画	小南広子(下徳久下)
書	西川博敏(宍粟市)	写真	田村元志(本位田甲)
工芸	石倉ふみよ(須安)		

■佐用ライオンズクラブ賞

日本画	蔭山泰子(山平)	洋画	吉田真樹穂(京都市)
書	安松一美(山脇)	写真	古谷 昇(相生市)
工芸	寺本武士(宍粟市)		

■奨励賞

日本画	池田芳伸(赤穂市)	洋画	井谷智行(西河内)
洋画	竹田沢子(上上月)	洋画	寺本三枝子(宍粟市)
書	松本香澄(美作市)	書	小林悦子(仁方)
書	巴 宏美(多賀)	写真	高見博和(久崎)
写真	鞍田和風(広山)	写真	坂本ひさ子(下秋里)
写真	岸本恵子(宍粟市)	写真	井関一文(安川)
写真	西岡美沙子(三日月下)	写真	高見房子(家内)
写真	長谷川妙子(姫路市)	写真	柴田文男(たつの市)
写真	橋本 明(茶屋下)	工芸	半田浩子(大畠)
工芸	衣本利美(山脇)	工芸	寺本久香(早瀬1)



作品を見る来場者



南光会場
11/6~7

中安小学校有志による「よさこいソーラン」。アンコールの声にこたえ、2回披露しました



大正琴が奏でるメロディーにあわせて踊る子どもたち（大正琴すずらん教室）



自然薯特産部会をお手伝いする上津中学校有志たち

約 300 点の力作が並んだ展示会場

佐用会場
10/30~11/3





(写真上) 戸屋よしゑさん
(写真下) 船引ヨシ子さん



戸屋よしゑさん(上長尾)、船引ヨシ子さん(福吉)が百歳を迎えられました。おめでとうございます。

明治43年の11月生まれのお二人は、大変お元気で、家族や施設の皆さんから温かい祝福を受けました。

またお二人には、庵迤町長から長寿祝金と花束が贈られました。

祝百歳



おめでとうございます
戸屋よしゑさん(上長尾)
船引ヨシ子さん(福吉)



感謝状を手にする小紫さん(左)と間嶋さん

人権擁護委員

小紫秀真さん(船越) 間嶋太一郎さん(櫛田) が退任

人権擁護委員の小紫秀真さん(船越)、間嶋太一郎さん(櫛田)が、9月末で退任しました。在任中の功績に対して、法務大臣から感謝状が贈られました。

お二人はこれまで、定期的な人権相談や、子どもを中心とした人権教育など、様々な活動を通じ、町民の

人権意識の普及と向上に尽力しました。

お二人に代わって、新委員には古淵操さん(久崎)、小紫光慈さん(船越)が就任しました。

また押田美代子さん(西河内)、岩本美保子さん(真宗)は、引き続き委員を務めます。

発令中

交通死亡事故多発警報 通り慣れた道でも安全確認を

11月に入り、町内で自動車の交通死亡事故が2件発生しています。11月12日、役場前で決起集会を開き、町は交通死亡事故多発警報を発令しました。年末で慌ただしくなる中、さらに交通事故が多発するおそれがあります。今一度、交通ルールの遵守と安全確認の重要性を認識しましょう。

■交通事故防止のために

- ①わき見運転は絶対にやめましょう。
- ②通り慣れた道でも、しっかり安全確認をしましょう。
- ③「自分だけは事故にあわない」という思い込みをやめましょう。
- ④夜間の外出時には夜光反射材を活用しましょう。



11月12日に行った決起集会のようす



企画防災課まちづくり防災室

☎82-0664

佐用警察署

☎82-0110

ワンポイントアドバイス

凍傷と低体温

■凍傷

凍傷とは、極度の低温が原因で生じる皮膚や皮下組織の傷害を言います。凍傷に最もかかりやすいのは、手、足、顔面、耳などの心臓から遠い部分です。



高齢者や乳幼児の場合、体温の調節機能がうまく働かないため、屋内などでも起こる可能性があります。

【凍傷の応急手当】

- 衣服がぬれている場合は脱がして着替えさせ、タオル、毛布で温めます。
- 温かい飲み物を与えて温めます。
- 凍傷がある部分は、乾いたタオル、ガーゼで覆います。
- こすったり、もんだり、たたいたりしないようにしましょう。
- すぐに病院へ行きましょう。

■低体温

低体温とは、風雨や気温の低下で体温が奪われ、35度以下になった状態を言います。飲酒後や睡眠薬服用後に寒い所で寝てしまう例が最も多く報告されています。

寒気、震えから始まり、体温が30～31度になると震えは止まりこん睡状態になります。30度以下になると、生命の危機となります。

【低体温の応急手当】

- 風などを避けられる暖かい場所へ移します。
- 衣服がぬれていれば、乾いた温かいものに変えます。
- 毛布などでくるみ、温めます。
※保温の仕方は先月号で紹介
- 脇の下や、足の付け根を「湯たんぽ」などで温めます。



問 消防署 ☎ 82-3872

クリーンセンターから お知らせ

■年末年始の業務

年末は28日㊤まで通常業務です。

また、29日㊤は臨時開庁し、収集と搬入の受付を行います。年始は4日㊤から開始します。

日	月	火	水	木	金	土
12/19	20	21	22	23	24	25
休	○	○	○	○	○	休
26	27	28	29	30	31	1/1
休	○	○	○	休	休	休
2	3	4	5	6	7	8
休	休	○	○	○	○	休

■祝祭日の業務

次の日は収集・搬入の受付を行います。

12月23日(天皇誕生日)

1月10日(成人の日)

また、直接搬入の受付時間、料金は次のとおりです。

■受付 午前9時～午後4時30分

■料金 100^キまで300円。以降は100^キごとに300円が加算されます。

問 佐用クリーンセンター ☎ 82-0293



ところ
おりひめ文化ホール
(さよう文化情報センター)

とき
平成23年1月22日(土)

春との旅

文化協会主催映画上映会

■入場料(前売り)

一般(高校生以上) 500円
高校生以下 200円
(当日各100円増)

問 生涯学習課 ☎ 82-3336

秋のひまわりで地域活性化

上三河集落で『ひまわりまつり』

上三河集落では、10月31日、秋に咲くひまわりを生かし、ひまわり祭りが開催されました。秋のひまわり栽培は、同集落の環境保全組合が取り組む地域活性化事業で、今年で4年目を迎えます。

8月22日に、子どもから高齢者までが集まり、約50㍍の田んぼへ種をまいて以来、草刈り、耕うんなどの栽培管理を集落総出で行ってきました。

ひまわり畑の横に設けられたまつり会場には、集落から約120人が来場。手作りのしし汁やおにぎり、バーベキューやアユの塩焼きなどに舌鼓を打ちながら、美しいひまわりとビンゴゲームなどを楽しみました。

同組合代表の阿曾加壽也さんは「秋のひまわりで、みんなの笑顔を見ることができ、よかったです」と笑顔で話していました。



(写真上) 見事に開花したひまわり

(写真下) ひまわり畑でビンゴゲームを楽しむ来場者



多くの人出でにぎわう

町大収穫祭が開催される

11月3日、佐用商店街で観光協会や商工会などの共催による大収穫祭が開催されました。佐用地鶏やホルモン焼きうどん、また自然薯のどろろご飯などの販売や、綱引き大会、キャラクターショーなどが行われ、会場は多くの人でにぎわいました。

綱引き大会には、14チームが参戦。町内の多くの若者が熱戦を繰り広げ、歓声があがりました。結果「HAKURO.TC」が見事優勝しました。

また、龍山神社の大屋台も会場を巡行。勇壮な太鼓と掛け声で、屋台は何度もさしあげられ、会場は盛り上がりしました。

その他、この日に合わせて『子育てほっとステーション 缶★環★館』がオープンしました。この施設は商店街で親子がくつろげる場所を創出する県の補助を受け、空き店舗を改修したもの。町内では久崎商店街に続き2例目です。

黒澤絵里さん（柴谷）、高谷ひろみさん（横坂）、武田明日花さん（大坪）、長谷川優子さん（中町）の4人が、同じ子育て世代をターゲットにしたフリーマーケットを開催し、来場者と交流を深めていました。



(写真上) 掛け声とともに登場した龍山神社の屋台

(写真下) 綱引き大会優勝の「HAKURO.TC」





巨大サツマイモを手にする大浦さんと部会メンバー

巨大な秋の実りを収穫

三日月地域づくり協議会さいさい部会

乃井野地内のまちおこし施設味わいの里三日月の畑でこのほど、重さ約5kgの巨大サツマイモが収穫され、地域話題となりました。

このサツマイモは三日月地域づくり協議会で、農業を通じて地域の活性化を考えるさいさい部会（代表：大浦忠行さん（三日月下））が栽培したもの。このほど同部会が開催したイモ掘り体験会で、大浦さんが掘り出しました。

「これほどの大物は初めて見ました」と大浦さん。しばらくは同施設で展示された後、食用として加工される予定です。



紅葉をバックに演奏する伽羅のお二人

美しい音色と紅葉を楽しむ

もみじ祭り

家内地内にある清林寺で11月14日、「もみじ祭り」が開催され、多くの来場者でにぎわいました。

このイベントは、美しく紅葉したもみじを多くの人に見ていただこうと企画されたもので、今回で2回目となります。

境内では模擬店のほか、能管とびわのユニット「伽羅」によるコンサートが行われました。会場の皆さんは、美しく紅葉したもみじを見ながら、能管とびわの響きに心を打たれていました。また夜には、もみじのライトアップも行われました。



真剣に心肺そ生法を学ぶ参加者

人命救助は地域ので

応急手当講習会

11月13日、中村地内のふれあいの里三日月で、三日月地域づくり協議会東部部会（代表：小林君江さん（茶屋上））主催の応急手当講習会が実施され、自主防災組織救出・救護班員など29人が、消防署員の指導を受けました。

この講習会は、災害現場などで倒れている人を発見したとき、速やかに適切な応急手当を行える知識を習得するために実施されたものです。講話とビデオで基礎知識を聞いた後、人工呼吸や心臓マッサージ、止血法などを実技で学びました。

参加者は「いざというときに勇気を持って役立てたい」と話していました。

すべての町民の暮らしを応援します

としょかん

だより

佐用町立図書館
 佐用郡佐用町佐用2585 TEL 82-0874 FAX 82-0313
 メールアドレス toshokan@town.sayo.lg.jp
 ホームページ http://www.toshokan.town.sayo.lg.jp

年末特別貸出のお知らせ

年末年始は休館日が続きますので、12月14日(火)から26日(水)の間に限り、貸出数の上限をなくし、新刊雑誌の貸出期限も2週間にします。

年内は12月26日(水)まで開館し、新年は1月5日(水)から通常どおり開館します。

なお、休館中の図書の返却は、返却ポストをご利用ください。

利用ください。

大人のためのストーリーテリング

図書館では子どもたちに「おはなし会」を実施していますが「大人はいつしよに入れないの」などの意見をいただいていた。そこで今回「大人のためのストーリーテリング」を1月から3月の間、月1回で開催します。

くわしくは来月号でお知らせします。

おはなし会 (申込不要)

【小さい人 (5歳以上)】

■日時 毎週日曜日

午後2時30分～午後3時

■12月のおはなし

「こねこのチョコレート」

【大きい人 (小学3年生以上)】

おはなし会希望のかたは、カウンターでお申し出ください。

図書館カレンダー

12月 December 師走							1月 January 陸月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4							1
5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8
12	13	14	15	16	17	18	9	10	11	12	13	14	15
19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22
26	27	28	29	30	31		23	24	25	26	27	28	29
							30	31					

※色文字の日は休館日です。開館時間は午前10時～午後6時

としょかんボランティア「あそびせ隊」のおはなし会



■日時 毎週土曜日

午後2時～午後2時30分

■場所 図書館おはなしコーナー

■対象 幼児・小学生

■申し込み 不要

ママプラザだより



「将来すてきな

パパ・ママになってね」

ひまわりっ子ママプラザと、みかづきっ子ママプラザの親子が、今年で9回目となる上津中学校3年生とのふれあい体験交流会に参加しました。家庭科の授業の一環で始まったこの交流会は、中学生に乳幼児や親とのふれあいを通じて、

命の尊さや幼い子どもへの愛情、親になることの意味や責任などを学んでもらおうと行っているものです。最初は緊張していた中学生も、おもちゃで遊んだり、幼児を抱っこをしたりするうちに優しい表情に。そして子どもの目線であれあい、常に動きまわる子どもたちを相手に子育ての大変さを体験しました。また、わが子の数年後と重ねながら、中学生と話をしているお母さんの姿もあり、印象的でした。



ふれあいを楽しむ中学生たち

問 キラキラっ子ママプラザ

☎ 82・4108

ビスラッ子ママプラザ

☎ 86・1153

ひまわりっ子ママプラザ

☎ 78・0264

みかづきっ子ママプラザ

☎ 79・3788

新着図書案内

2010.10.16 ~ 2010.11.10 受け入れ分の一部



●大人向けの本

頭脳の散歩 — デジタル教科書はいらない

田中真紀子／著 ポプラ社

中国で尊敬される日本人たち — 「井戸を掘った人」のことは忘れない 朱 建栄／著 中経出版

北の後継者キム・ジョンウン 藤本健二／著 中央公論新社

関西むかし町&古街道をあらく JTBパブリッシング

菅直人総理の野望 — 小沢一郎との死闘

大下英治／著 ベストセラーズ

気がつけばドッキョロージン — ハッピーシングルライフ

渋沢幸子／著 じゃこめてい出版

地域ケア会議がつなぐお互いさまのまちづくり

筒井のり子／監修 全国コミュニティライフサポートセンター

食べるクスリおかゆ 崔 智恩／著 ブロンズ新社

裏も楽しい手編みのマフラー

嶋田俊之／著 文化学園文化出版局

姫路・加古川とっても上等なランチ

プラネット／著 メイツ出版

「地元」の力 — 地域力創造7つの法則

金丸弘美／著 NTT出版

ペットの冠婚葬祭まるごと便利帳

— 「出会い」から「お別れ」まで、この一冊ですべてがわかる！
大岳美帆／編著 阪急コミュニケーションズ

FREE 経済が日本を変える

— 「無料」で儲ける人たちが知っていること
野口智雄／著 中経出版

福を招くおめでたい切り紙

— めでたづくしのありがたい100作品を収録！
切って、開くと、もれなく福がやってくる！
大原まゆみ／著 誠文堂新光社

生まれてバンザイ

俵 万智／作 童話屋

■夏目家順路

朝倉かすみ／著 文芸春秋

■撃てない警官

安東能明／著 新潮社

再びの海（足引き寺間魔帳） 沢田ふじ子／著 徳間書店

★**鋼鉄の叫び** 鈴木光司／著 角川書店

★**橘花抄** 葉室 麟／著 新潮社

▲**還暦探偵** 藤田宜永／著 新潮社

▲**ほかけ橋夕景** 山本一力／著 文芸春秋

白銀ジャック 東野圭吾／著 実業之日本社

坂の下の湖 石田衣良／著 日本経済新聞出版社

新しい人生 オルハン・パムク／著 藤原書店

●子ども向けの本

世界の国1位と最下位 — 国際情勢の基礎を知ろう

真 淳平／著 岩波書店

名画でメリー・クリスマス（おはなし名画をよむまえに4） 博雅堂出版

子どもに語るイギリスの昔話

ジョセフ・ジェイコブズ／再話 こぐま社

▲は図書館と上月図書室に、★は図書館と南光図書室に、■は図書館と三日月図書室にあります。

地域包括支援センター通信



認知症の早期発見に もの忘れ健康相談を

地域包括支援センター

で「もの忘れ健康相談」を始めて、今年で4年目となりました。これまで、延べ130件の相談に応じています。

その中で「相談しようと思っただけ、まだそこまでひどいもの忘れではないと思っただけ、やめます」と相談を取りやめるケースがよくあります。しかし「まだそこまでひどいもの忘れではない」という状態のときこそ、「もの忘れ健康相談」を利用してほしい時期なのです。

認知症は早期に発見すればするほど、薬の効果が期待できます。また相談によって、うつ病や脳こうそくなど、他の病気を発見するきっかけになることもあります。

ります。

「病院にかかるまでもならないけど、もの忘れがあるような・・・」。日々の生活に少しでも不安があるかたは、ぜひ「もの忘れ健康相談」にお越しく下さい。

■今後の相談日程

12月22日(水)

1月26日(水)

2月26日(土)

すべて午後1時30分～

一人30分程度の認知症専門

門医との面接相談です。

完全予約制ですので、地

域包括支援センターへお電

話ください。

問 地域包括支援センター

(健康福祉課健康増進室)

☎ 87・8020

対象者は
無料

麻しん・風しん混合ワクチン

予防接種を受けましょう

近年、「麻しん」が10～20歳代の若者に多く感染し、社会問題になりました。

そこで、幼児期に「麻しん」「風しん」の予防接種を1回しか受けていない世代に対し、平成20年4月から、5年間の定期予防接種が始まりました。

接種料は無料です。平成23年3月31日までに、必ず接種してください。

なお、医療機関への事前予約が必要です。

■平成22年度の対象

2期：5～6歳（小学校就学1年前）

平成16年4月2日～平成17年4月1日生まれのかた

3期：13歳（中学1年生）

平成9年4月2日～平成10年4月1日生まれのかた

4期：18歳（高校3年生相当）

平成4年4月2日～平成5年4月1日生まれのかた

＊1期の対象年齢は、満1歳～2歳未満です。1歳になったら、速やかに接種を受けましょう。



問 健康福祉課健康増進室 ☎ 87-8020



食育といずみ会活動

町いずみ会では、保育園や小学生とのふれあいクッキングのほか、イベントなどで食育のチラシの配布、また地元産のみそや野菜を使った減塩みそ汁の普及活動など様々な場面で、食育の推進を図っています。その一部をご紹介します。

■保育園での食育活動

子どもたちは家族といっしょに楽しい食卓を囲むこと、自分で料理を作ること、1日3回の食事をきちんと食べることなどを学んでいます。

また「カルシウムたっぷりおにぎり」「減塩味噌汁」「豆腐ハンバーグ」「チンゲン菜のおひたし」などを、園児・保護者とともに調理をしています。包丁を持つのが初めてという園児や慣れた手つきで切る園児も

いますが、食材に直接触れたり、料理にかかわったりする中で、今まで嫌いで食べなかったものを「今日は食べました」という保護者の声もありました。

■イベントなどで食育普及活動

いずみ会では、上月や佐用などの収穫祭などで、来場者に「日々の食事から健康づくりを考えましょう」「減塩みそ汁で健康に」など声をかけながら、食育のチラシを配布しました。住民のかたからは「おいしいみそ汁です」や「このくらいの味付けにしないといけないね」などの声を聞きました。

今後とも会員みんなで食育の大切さを広め「私たちの健康は、私たちの手で」を合い言葉に、食を通じた健康づくり活動を展開します。

行事カレンダー

■デイ・ケア(精神障がい者社会復帰訓練事業)

12月 7日(火)

12月16日(木)

午後1時30分～午後3時30分

■こころのケア相談日(要予約)

12月14日(火)

午後2時～午後4時

※場所は佐用町保健センター

問 健康福祉課健康増進室 ☎87-8020

■こころのケア相談日(要予約)

12月17日(金)

午後1時～午後2時

■若者の心と体の相談(要予約)

12月17日(金)

午後1時～午後3時

※場所は龍野健康福祉事務所

問 龍野健康福祉事務所

☎0791(63)5142

赤ちゃん和妈妈の行事

★ヨチヨチ健康相談(平成21年12月生まれ)

12月17日(金) 午後1時30分～

★4か月児健診(平成22年8月生まれ)

12月20日(月) 午後1時30分～

★1歳6か月児健診(平成21年4・5月生まれ)

12月21日(火) 午後1時～

★すくすく健康相談離乳食教室(平成22年5・6月生まれ)

1月6日(木) 午前10時～

★すてきなママになるための教室(妊婦)

1月17日(月) 午前10時～

★0歳児クラス(2か月～1歳未満)

1月17日(月)

2か月～6か月児 午前10時～午前11時30分

7か月～1歳未満児 午前10時30分～正午

※いずれも場所はさよう子育て支援センター

※母子健康手帳の交付は、上月保健福祉センターとさよう子育て支援センターで行っています。事前に保健師がいることを確認してからお越しください。

問 上月保健福祉センター ☎87-8020

問 さよう子育て支援センター ☎82-0341

健康だより



あなたの胃 元気ですか？

胃がんは、日本人に一番多いがんです。初期には症状がほとんどなく、進行した状態で発見されます。

胃の壁は一番内側から、胃液などを分泌する「粘膜」、すぐ外側にある「粘膜下層」、さらに胃を動かすための筋肉の層「筋層」、最も外側にある「しょう膜層」の4つの層に分かれています。

胃がんは粘膜から発生します。粘膜、粘膜下層にがんがとどまっている状態を「早期がん」、がんが筋層に達していたり、筋層からさらに先へ広がっていたりする状態を「進行がん」と呼びます。

■症状

「胃の不快感」「胸やけ」「食欲がない」「吐き気」などですが、初期には、ほとんど症状のない人が多く、進行すると「貧血」「便が黒くなる」「吐血」などの症状が見ら

れることもあります。

■検査方法

一般の胃がん検診では「X線検査」、精密検査や人間ドックでは「胃内視鏡検査」が行われます。最近はピロリ菌に感染すると、胃がんのリスクが高まることから「ヘリコバクターピロリ抗体検査」を行うこともあります。

■治療

早期であれば「内視鏡治療」が可能です。これは内視鏡を使って、がん化している部分をはがし取る方法です。進行がんは「外科手術」「抗がん剤治療」が行われます。

■定期的に胃の検査を

40歳を過ぎると、胃がんの発生率は高くなりますが、早期発見、早期治療すれば、完治が可能です。40歳を過ぎたら、年に1回は検査を受けましょう。

第1次試験

平成23年1月15日⑤

午前10時～

佐用町保健センター

第2次試験

平成23年2月中旬

※第1次試験合格者に別途通知

■給与

初任給

給料月額144,500円

(高校卒直採用の場合)

諸手当 扶養手当・通勤手当・期末手当・勤勉手当など

■受験手続き

総務課に所定の申込書がありますので、事前にお取り寄せの上、平成23年1月5日⑥までに申し込んでください。

問 総務課総務人事室

☎82-2549

検察審査員選定にご協力を

検察審査会事務局では、検察審査員を選定するために、11月から順次候補者になったかたへ候補者名簿記載通知、質問票を送付しています。

この通知が届きましたら、ご協力をお願いします。

問 姫路検察審査会事務局

☎079(223)2913

防火・防犯で明るい新年を



**年末特別警戒
実施中**

12月31日⑦まで

消防署・佐用警察署

iii人のうごき

11月20日現在()内は前月比

人口 20,002人(△15)

男 9,566人()5)

女 10,436人(△20)

世帯数 7,210戸(△4)

11月中の移動

出生 6人 死亡 24人

転入 41人 転出 38人

お誕生おめでとう

10月21日から11月20日届出分 敬称略

名 前 保護者 自治会

個人情報のため非公開

お悔やみ申し上げます

10月21日から11月20日届出分 敬称略

名 前 年齢 自治会

個人情報のため非公開

名 前 年齢 自治会
個人情報のため非公開

佐用チャンネル

放送更新日

12月3日(金)

17日(金)

31日(金)

■ちょうみんカレンダー

12月上旬～1月上旬

月日	曜日	内 容	場 所	時 間
12/8	水	福祉相談	南光地域福祉センター	13:30～16:00
9	木	高年大学南光教室	南光文化センター	10:30～
12	日	さようマラソン &ウォーク	三日月中学校周辺	8:00～
		高年大学上月教室	上月文化会館	10:00～
			佐用町保健センター	
15	水	行政相談	上月支所	13:00～15:00
			南光文化センター	
			三日月支所	9:00～11:00
16	木	高年大学佐用教室	さよう文化情報センター	10:00～
21	火	高年大学三日月教室	三日月保育園	10:00～
26	日	久崎市	16㊦をご覧ください。	
1/3	月	平成23年成人式	31㊦をご覧ください。	



今月の納税^{など}

●固定資産税第3期分

納期限 12月27日^月

口座振替日は12月27日^⑩です

納税は納期限までに！

問 税務課町税対策室
☎ 82-0662

今月の納税相談日

12月17日^金

■受付時間

午前8時30分～午後5時

■**受付場所** 役場本庁税務課
災害・盗難・疾病・失業や
廃業などで納期限までに町税
が納められない場合は、納税
相談に応じます。

問 税務課収納管理室
☎ 82-0662

●国保税（普通徴収）第5期分

●介護保険料（普通徴収）第5期分

●後期高齢者医療制度 （普通徴収）第5期分

納期限 12月27日^月

口座振替日は12月27日^⑩です

納税は納期限までに！

問 住民課年金・保険室
☎ 82-0660

開設しました 消費生活センター

悪質商法による被害や未公開株の勧誘、多重債務など、多発する消費生活問題に対応するため、町では12月1日から、消費生活センターを開設しました。お気軽にご相談ください。

■開設日時

土・日曜日、祝祭日を除く
午前9時～午後5時

問 町消費生活センター
（商工観光課内）

☎ 82-0670

ご協力ください 工業統計調査

経済産業省では、12月31日現在で「工業統計調査」を実施します。

工業統計調査は、製造業を営む事業所を対象に行われ、調査結果は国や地方公共団体をはじめ、企業・大学などで広く利用できる総合的な統計資料を得るための調査です。

■企画防災課広報室

☎ 82-0664

久崎財産区議会議員 立候補者説明会

■日時 12月21日^④

午後1時30分～

■場所 上月文化会館

■投票日 平成23年1月23日^⑩

■投票時間

午前7時～午後8時

■選挙の対象地区

家内・久崎・櫛田・円光寺・
下秋里・上秋里・西新宿・
大日山・小赤松・大酒のみ

問 選挙管理委員会事務局（総務課）

☎ 82-2549

平成23年 成人式

■**日時** 平成23年1月3日（月）
受付 午後0時30分～
式典 午後1時30分～
式典後に記念撮影を行ないます。

■場所

さよう文化情報センター

問 総務課総務人事室

☎ 82-2549



前回の成人式

町職員を募集 消防職（初級）

■採用予定日

平成23年4月1日以降

■**試験職種と採用予定人数**
消防職（初級） 1人

■受験資格

高校を卒業したかた及び平成23年3月に高校卒業見込みのかたで、昭和60年4月2日から平成5年4月1日までに生れたかた（平成23年4月1日現在満18～25歳）。

■試験の内容・日時・場所

第1次試験（教養試験、作文試験）及び第2次試験（口述試験、体力試験、消防適性検査など）とし、第2次試験は第1次試験合格者に対して行います。

わが家のアイドル



西本 ゆうと 悠隼ちゃん

西本 りな 梨那ちゃん

毎日、歌い笑い元気な双子です。少しずつ好みは変わってきたけど、いつもいっしょにいる仲良しな二人です。来年からは保育園！お友だちたくさん作って元気に通園してね。 パパ・ママより

星空ばんざい 西はりま天文台公園 がんばれ！ドロシー計画

11月5日から7日までの間、地球外文明探査「ドロシー計画」が実施されました。この計画は、今年が世界初の探査「オズマ計画」から50年目にあたることを記念して実施されたものです。

人類は、この間にも地球外文明探査にチャレンジし続けていますが、この計画は世界最大の電波望遠鏡アレシボ天文台も含め、世界中13か国、23機関が同じ天体を観測するという史上最大の合同観測となります。また、50年前とは違い、ここ数年で発見されるようになった惑星を持つ星が主なターゲットです。地球外文明探査を行う意義もより深くなっていると言えるでしょう。

この全人类的計画のリーダーは西はりま天文台公園の鳴沢研究員です。12月以降に第3回目の合同観測が予定されており、まだまだ目が離せません。応援よろしくお願いします。

西はりま天文台公園主任研究員 坂元 誠

天文クイズ

- ドロシー計画の「ドロシー」ってだれのこと？
- (1) スタートレックの脚本家ドロシー・フォントナ
 - (2) 「オズの魔法使い」に登場する主人公ドロシー
 - (3) ウルトラセブンに登場するドロシー・アンダーソン博士

【応募方法】 はがき、またはFAX・メール（アドレスは左記に変わりました）で住所、お名前、年齢、電話番号、答えを記入し役場広報室まで送ってください。正解者の中から抽選で3人のかたに景品を送ります。なお、発表は景品の発送をもって当選者のかたにお知らせします。



佐用町の誇り 瑠璃寺の大スギ

「スギ」と聞いて何を連想しますか。ある人は建築材をはじめ、おはしや家具などの用材を、またある人は世界遺産となった屋久島の屋久杉を、また別の人は花粉症を思い浮かべ、顔をしかめるかもしれません。

スギは九州から本州に至る広い範囲に分布し、古くは縄文時代から使われていたことが分かっているなど、日本人に親しまれ、最も身近に感じる木のひとつです。

さて、このようなスギには品種がたくさんあり、その中には町内の地名がつけられたものもあります。それは「フナコシスギ」といって、船越にある船越山一帯に生育しているものです。

フナコシスギは成長が早く、病害虫による被害の少ない品種として知られています。ただ芯の部分が黒くなっているのが欠点ですが、そのぶん丈夫で腐りにくい良さがあるとも言われます。

このフナコシスギは瑠璃寺に行くと見ることができます。そして参道の入り口近くから両脇に立ち並ぶ大きく成長したスギに目を引かれます。さらにお寺の本堂へ向かって行くと石段の終わりあたりに、目の前に一際高くそびえる太いスギが目に入ります。

このスギが町指定天然記念物の「瑠璃寺の大スギ」。高さは約50m、目通り周は約5m、樹齢は300年と推定されています。

船越山に生育するスギは、その昔に植林されたものと言われていますが、数あるスギの中でもこの大スギは特に優良で、その代表的なものとされています。

（参考文献：「船越山自然物語」内海功一著 ほか）

編集後記

◆取材を通じて、これまで多くの人たちの「熱い思い」にふれてきました。そしてその都度感動してきました。◆「熱い思い」は、何も熱血に語られるだけではなく、冷静に話す人、愉快地楽しく話す人など様々。しかし共通するのは「この町で生きる誇り」があることです。◆多くの「誇り」がある限り、佐用町は困難に立ち向かうことができると信じています。◆「広報はまちづくり」では、そんなことを確信できました。◆「広報はまちづくり」を伝える、この町の様々な「誇り」を伝え、新たな「誇り」を生む。そんな理想の紙面を追って、来年も頑張ります。④